秋田魁新報　2021年09月09日付　県央

男鹿海洋高校

「海技士」取得へ連日補習

県内唯一の水産高校である男鹿市の男鹿海洋高校（船木和則校長）が、大型船の乗組員に必要な「海技士」の資格取得に向けた教育に力を入れている。就職先の選択肢を広げ、ゆくゆくは地元でも働けるようにと、希望する生徒たちに連日補習を実施している。

海技士資格取得に向け、男鹿海洋高校で放課後に行われている補習

8月31日、午後4時すぎ。放課後の機関制御室で2、3年生の4人が教科書や問題集を広げ、黙々と勉強していた。

今年3月から始まった補習の光景だ。指導する教員の一人、秋島俊文教諭(38)は「みんなけて熱心に問題を解いています」と目を細める。

同校は長年、海技士取得に力を入れてきた。機関専攻科を設けて専門的に教育し、大型実習船「船川丸」（488トン）で乗船経験も積ませた。だが、船川丸は老朽化により2012年度末で引退。海技士を目指す生徒は卒業後、県外の教育機関で学ぶしかなくなっていた。

将来の地元定着に期待

そんな中、本県で洋上風力発電の取り組みが進んできた。海技士の資格があれば、風車設備の点検や修理を行う作業員を輸送する大型船の運航を担うことができる。同校はこの動きに着目し、希望する生徒への補習に取り組み始めた。

海技士の中でも、船に乗り組む「機関士」が全国的に不足している事情を踏まえ、特に「機関」区分の資格取得に注力。取得は生徒たちの就職の幅を広げるだけでなく、将来の地元定着にもつながるとみている。

海技士の資格取得には乗船履歴が必要となるが、同校ではまず筆記試験合格を目指している。

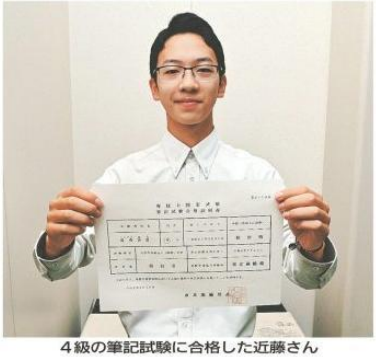
すでに成果も出ている。2年生の近藤波瑠さん(16)が7月に4級の筆記に一発合格。同校によると高校生での合格は珍しいという。

近藤さんは「学校の勉強に加えて資格の勉強があるので大変だったけど、苦労した分うれしい。将来は船に乗って海外に繰り出す仕事がしたい」と目を輝かせる。

秋島教諭は「4級の筆記試験に合格すれば就職に有利になる。ゆくゆくは洋上風力関連の企業で活躍して、地元の人材に地元の産業を支えてもらいたい」と期待する。

近藤さんは新たに来年の3級合格を目標に掲げる。一緒に勉強する3人も10月の試験で4級の筆記合格を目指している。それぞれに猛勉強中だ。

（藤原剛）



4級の筆記試験に合格した近藤さん

海技士

総トン数20トン以上の大型船に乗り組むために必要な国家資格。「航海」「機関」など4種類の区分があり、それぞれ複数の等級がある。「機関」の場合、筆記と口述の2種類の試験を合格することと、一定の乗船履歴も求められる。

©秋田魁新報社